

## JST、さくらサイエンスクラブ 日本在住の同窓生らと交流

科学技術振興機構（JST）とさくらサイエンスクラブ（SSC）日本同窓会は8月19日、オンラインイベントを開催した。写真。以前よりオンラインイベントの場では、参加者と講演者がより深い会話、意見交換をする機会を提供してほしいとの要望が多くあった。今回、SSC日本同窓会幹事団は、その要望を取り入れ一方的な講演だけでなく、より参加者が身近に感じられるようなイベントを構築していった。

はじめに、日本同窓会幹事長のヨハネス・ニコラス・ウイビナサ氏が開会の挨拶を行い、日本同窓会副幹事長であるスラット・オマール氏が当日の全体進行を務めた。



ラム（SSP）の概要説明の後、日本在住の同窓生6名が「SSPが現在の日本での生活にどのように影響を及ぼしたか」について▽産業界のプロフェッショナル▽アカデミアのプロフェッショナル▽日本での学生生活の3つのカテゴリに分かれて講演した。休憩をはさんだ後、従来からの要望に基づき、講演者と参加者のより深い交流の実現のためにイベントのメイン企画として用意した、ブレイクアウトルームでのセッションを実施。ブレイクアウトルーム内では、奨学金情報の集め方や、日本留学時にどの程度の日本語能力が必要とされるか等の具体的な質問が多く寄せられた。

日本での就職については、「経済産業省は国外から参加することのできるインターンシップなどを提供している。それらのインターンシップの参加を日本での就業の足がかりにすることもできる」「いくつかの国では、日本での就職についてポータルサイトで管理している。そういったサイトから応募できそうな仕事を探すことも可能」「海外から直接日本でのフルタイムの仕事を探すよりも、英語で受けられる日本の修士コースに参加した上で、修士の学位を取得し、プロフェッショナルな道を探すのもよい」等の具体的なアドバイスがあった。

日本で生活する上で困難だったことについても質問が寄せられた。日本語習得に関しては日々の勉強が求められることが明かされ、「友人を作り生活していく中で、学び習得していくのがよい」「日本特有の上下関係やラボの雰囲気を理解することも大事」等の講演者の実体験に基づいた提言もなされた。

### ◆参加者の声

「非常に有益な情報だった」「またこのようなイベントに参加したい」などの声が多く寄せられた。「時差があるので、あと1時間開始時間が早まると、とてもありがたい」といった声もあり、世界各国にいる同窓生からも高い関心が寄せられた。